

「健康すいた21」重点項目別進捗状況について

「健康すいた21」は、平成18年度(2006年度)～平成27年度(2015年度)を計画期間としています。

ここでは、平成17年度(2005年度)策定時実績、平成21年度(2009年度)中間実績及び最新の平成26年度(2014年度)実績の、計画最終年度である平成27年度(2015年度)指標別目標に対する達成度を示すとともに、これまでの事業(取組)の効果・評価について、考察を行いました

なお、各指標については、下記のとおり3段階の自己評価を行いました。

【各指標の評価について】

- ◎：目標値に到達している。
- ：目標値に対する平成26年度実績の達成率が90%以上である。または、達成率が上昇傾向にある。
- ：目標値から離れる傾向にある。

また、各指標の評価結果をもとに行った「全体の評価結果」は、下記のとおりです。

8つの重点項目の全体指標60項目のうち、再掲2項目を除く、58項目の達成状況は以下のとおり。

『目標値に到達』と『目標値に対する平成26年度実績の達成率が90%以上。または、達成率が上昇傾向』を合わせ、全体の約85%を占めている。

【評価区分】

- ◎：25項目(43.1%)
- ：24項目(41.4%)
- ：9項目(15.5%)

【評価区分別主な指標】

- ◎(達成率上位3つ)
 - ・自殺者数
 - ・歯間ブラシ又はデンタルフロス使用者の割合(45歳～54歳)
 - ・夕食について孤食がある人の割合(高年期)
- (達成率上位3つ)
 - ・夕食について孤食がある人の割合(幼児)
 - ・市施設での禁煙実施率
 - ・短い距離なら歩く人の割合
- (達成率下位3つ)
 - ・夕食について孤食がある人の割合(成年期、中年期)
 - ・進行した歯周疾患罹患者の割合(35歳～44歳)

重点項目1 栄養・食生活の改善

実績及び目標達成率

	【策定時】平成17年度 (2005年度)		【中間実績】平成21年度 (2009年度)		平成26年度 (2014年度)		【最終】平成27年度 (2015年度)	評価
	実績	目標に対する達成率	実績	目標に対する達成率	実績	目標に対する達成率	目標	
1日当たりの野菜の平均摂取量	244g	69.7%	265g	75.7%	252g	72.0%	350g以上	●
メタボ該当者及び予備群の割合	—	—	43.4%	73.7%	41.9%	76.4%	男性 32%以下	○
	—	—	14.2%	77.5%	12.1%	90.9%	女性 11%以下	○
食事バランスガイドを認知している人の割合	アンケート未実施		59.3%	74.1%	73.3%	91.6%	青年 80%以上	○
			59.7%	74.6%	75.3%	94.1%	成年 80%以上	○
			49.5%	70.7%	57.0%	81.4%	中年 70%以上	○
			39.7%	66.2%	44.7%	74.5%	高年 60%以上	○
夕食について孤食がある人の割合	アンケート未実施		0.4%	99.6%	0.6%	99.4%	幼児 0%	○
			0.9%	99.1%	1.6%	98.4%	小学生 0%	○
			1.4%	98.6%	8.8%	91.2%	中学生 0%	○
			14.8%	67.6%	11.1%	90.1%	青年 10%以下	○
			18.0%	55.6%	23.9%	41.8%	成年 10%以下	●
			16.5%	60.6%	17.7%	56.5%	中年 10%以下	●
			11.4%	87.7%	7.6%	131.6%	高年 10%以下	◎

事業（取組）の効果・評価

保健師・栄養士等による健康相談や健康教室、毎年9月に実施している「みんなの健康展」の場を活用し、食事バランスガイド、野菜の摂取等栄養バランスの啓発及び孤食を減らすための啓発を行いました。また、国民健康保険加入者に対する特定健診の結果、生活習慣の改善が必要な方などへの特定保健指導、高齢者や障がい者への配食サービス及び介護予防のための栄養改善事業等、様々な取組を実施しました。

「食事バランスガイドの認知度」は、目標には至っていないものの、高年期以外で8割以上の達成率となっています。「メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合」は、計画の中間実績時から減少しているものの、特に男性については目標を下回っており、個々人の食習慣の振り返りから、行動変容につながる具体的な指導や支援を引き続き行う必要があります。また、「1日あたりの野菜の平均摂取量」の目標達成率が低く、「夕食についての孤食の割合」は、青年期・高年期以外のライフステージにおいて増加しており、特に中学生の孤食の増加が目立っています。経済状況や社会環境によっても食習慣は大きく左右されますが、すべての年齢層に対し、野菜摂取の増加や孤食の減少についての啓発活動等を一層推進していくことが必要です。

重点項目2 たばこ対策の推進

実績及び目標達成率

	【策定時】平成17年度 (2005年度)		【中間実績】平成21年度 (2009年度)		平成26年度 (2014年度)		【最終】平成27年度 (2015年度)	評価
	実績	目標に対する達成率	実績	目標に対する達成率	実績	目標に対する達成率	目標	
市施設での禁煙実施率	57.6%	57.6%	98.3%	98.3%	99.4%	99.4%	100%	○
喫煙率	29.2%	85.6%	27.7%	90.3%	23.1%	108.2%	男性 25%以下	◎
	8.4%	59.6%	7.9%	63.3%	6.3%	79.4%	女性 5%以下	○
禁煙相談者数	25人	—	34人	—	202人	—	増加	◎
禁煙サポートを実施している医療機関数	65機関	—	29機関	—	43機関	—	増加	◎
小・中学校でのたばこの害についての教育	—	—	全校実施	—	全校実施	—	継続	◎

事業（取組）の効果・評価

世界禁煙デーや禁煙週間に合わせた肺年齢測定等の啓発イベント、集団がん検診における喫煙者への短時間禁煙支援及び非喫煙者への受動喫煙に関する啓発などを行いました。また、母子健康手帳交付時、妊婦（両親）教室、乳幼児健診などの母子保健事業における啓発、市施設での受動喫煙防止の推進並びに小中学校でのたばこの害についての教育等を実施しました。

「禁煙相談者数」については、禁煙の情報提供やイベント等を強化したことから、計画策定時から増加しています。また、「男性の喫煙率」については、男性は計画策定時から6.1ポイント低下し、目標は達成していますが、がんや循環器疾患等の非感染性疾患（NCD）対策の推進のためにも、さらなる取組の強化が必要です。一方、「女性の喫煙率」については、計画策定時から低下しているものの、目標達成率が8割程度にとどまっていることから、今後、母子保健事業等での一層の取組の強化が必要です。

重点項目3 運動・身体活動の習慣化

実績及び目標達成率

	【策定時】平成17年度 (2005年度)		【中間実績】平成21年度 (2009年度)		平成26年度 (2014年度)		【最終】平成27年度 (2015年度)	評価
	実績	目標に対する達成率	実績	目標に対する達成率	実績	目標に対する達成率	目標	
体育施設利用者数	1,347,835人	—	1,425,657人	—	1,363,517人	—	増加	●
定期的に運動している人の割合	47.2%	94.4%	44.6%	89.2%	44.3%	88.6%	男性 50%以上	●
	38.6%	91.9%	36.6%	87.1%	45.4%	108.1%	女性 42%以上	◎
短い距離なら歩く人の割合	75.4%	87.7%	83.1%	96.6%	83.8%	97.4%	男性 86%以上	○
	71.2%	86.8%	80.6%	98.3%	81.5%	99.4%	女性 82%以上	○
中学校運動クラブ参加者の割合	61.0%	—	60.8%	—	63.3%	—	増加	◎
児童館各種プログラムの実施	—	—	継続	—	継続	—	継続	◎
運動・身体活動に関する教室の開催数	315回	—	381回	—	705回	—	増加	◎

事業（取組）の効果・評価

児童館や児童センターでの運動行事の実施、中学校での運動部活動の推進、市民体育館での各種スポーツ教室の実施及び公園のスポーツ設備等の運動環境の整備並びに健診等を通じた運動習慣の勧奨、ロコモティブシンドロームの予防啓発、高齢者の介護予防事業として運動器の機能向上事業（はつらつ教室）、すいたスマイル体操の推進等、様々な取組を行いました。

「定期的に運動している人の割合」や「短い距離なら歩く人の割合」について、概ね9割以上の達成率ではあるものの、さらなる上昇のために、運動に関心を持っていない人も気軽に運動を始めることができるよう、啓発活動の推進や運動に取り組みやすい社会環境の整備等を進める必要があります。

また、幼少や学齢期から運動に親しみ、その楽しさを感じることで、運動の習慣化につながる取組の強化や、高齢者においても、運動機能の維持向上、人とのふれあいや生きがいづくりなどの社会参加の促進のためにも、生涯を通じた運動の推進が必要です。

重点項目4 休養・こころの健康づくり

実績及び目標達成率

	【策定時】平成17年度 (2005年度)		【中間実績】平成21年度 (2009年度)		平成26年度 (2014年度)		【最終】平成27年度 (2015年度)	評価
	実績	目標に対する 達成率	実績	目標に対する 達成率	実績	目標に対する 達成率	目標	
ストレスを常と感じている人の割合	7.3%	89.0%	6.9%	94.2%	6.0%	108.3%	男性 6.5%以下	◎
	10.8%	89.8%	10.0%	90.0%	9.5%	102.1%	女性 9.7%以下	◎
睡眠時間を規則正しく取れる人の割合	66.0%	90.4%	72.4%	99.2%	68.6%	94.0%	男性40代 73%以上	○
	79.8%	90.7%	75.1%	85.3%	75.6%	86.0%	女性40代 88%以上	○
	77.9%	90.6%	83.7%	97.3%	77.7%	90.3%	男性50代 86%以上	○
	82.8%	91.0%	83.1%	91.3%	79.9%	87.8%	女性50代 91%以上	●
自殺者数	—	—	88人	69.3%	45人	135.6%	61人以下	◎

事業（取組）の効果・評価

こころの健康を保持するために、適度な運動やバランスのとれた食事、十分な睡眠の推進、ストレスの解消など、健診事業や相談業務での働きかけを実施しました。

また、健康面だけでなく、育児、介護及び経済面等、様々な要因から生じるストレスの軽減と自殺問題への対策として、各種相談窓口での対応の強化や、職員をはじめ地域支援者や関係機関等を対象としたゲートキーパー養成研修の実施、市民への自殺予防の啓発に努めました。

「ストレスを常と感じている人の割合」は、計画策定時から年々低下しており、目標を達成していますが、「睡眠時間を規則正しく取れる人の割合」については男女とも8～9割の達成率となっています。

今後も引き続き、休養や睡眠の重要性を広く啓発するとともに、悩みやストレスの解消のための一層の相談機能の充実が必要です。また、「自殺者数」は減少し、目標を達成していますが、さらなる自殺者の減少のため、学齢期から高齢者に至るまでの幅広い年齢層に対して、地域や学校、職域等の関係機関と連携しながら、気づく・つなぐ・見守る機能や支援体制の強化が必要です。

重点項目5 歯の健康づくり

実績及び目標達成率

	【策定時】平成17年度 (2005年度)		【中間実績】平成21年度 (2009年度)		平成26年度 (2014年度)		【最終】平成27年度 (2015年度)	評価
	実績	目標に対する達成率	実績	目標に対する達成率	実績	目標に対する達成率	目標	
むし歯のない 幼児の割合	75.5%	94.4%	81.5%	101.9%	85.7%	107.1%	3歳児歯科健診 80%以上	◎
永久歯のむし 歯経験歯数	1.55本	64.6%	1.19本	84.0%	0.88本	113.6%	中学1年生 1本以下	◎
進行した歯周 病罹患者の割 合（成人歯科 健診）	41.6%	74.5%	45.7%	67.8%	49.1%	63.1%	35～44歳 31%以下	●
	56.1%	69.5%	53.8%	72.5%	55.7%	70.0%	45～54歳 39%以下	●
20歯以上自分 の歯を有する 人の割合	50.0%	83.3%	57.3%	95.5%	65.8%	109.7%	75～84歳 60%以上	◎
歯間ブラシ又 はデンタルフ ロス使用者の 割合	—	—	56.1%	89.1%	60.8%	121.7%	35～44歳 50%以上	◎
	—	—	62.4%	124.8%	66.2%	132.4%	45～54歳 50%以上	◎
障がい者歯科 健診受診者数	50人	—	52人	—	57人	—	増加	◎

事業（取組）の効果・評価

保育園や幼稚園、小・中学校での歯科健診及び歯科保健指導、妊婦・乳幼児・成人・障がい者等に対する歯科健診の実施、高齢者に対する口腔機能向上事業として講演会、健康教室等を実施しました。また、平成26年9月に歯科保健の総合的な推進を目的に、「吹田市歯と口腔の健康づくり推進条例」を制定しました。

幼児や中学生、高齢者に関する指標については、いずれも目標を達成しています。しかし、「歯間ブラシ又はデンタルフロス使用者の割合」では、約6割の方が、歯ブラシ以外の清掃用具を使用しているにもかかわらず、同じ世代の指標である「進行した歯周病罹患者の割合」については、目標達成率が6～7割程度にとどまり、罹患率は低下していません。そのため、特に35歳以上の成人に対する取組としては、適切なブラッシング方法を習得し、歯周病の早期発見と悪化防止のために、定期的な歯科健診の受診勧奨をすることが必要です。また、この時期は、生活習慣病が増加する時期でもあることから、糖尿病等の生活習慣病と歯周病の関連についても、正しい知識の普及・啓発に取り組む必要があります。

重点項目6 アルコール対策

実績及び目標達成率

	【策定時】平成17年度 (2005年度)		【中間実績】平成21年度 (2009年度)		平成26年度 (2014年度)		【最終】平成27年度 (2015年度)	評価
	実績	目標に対する達成率	実績	目標に対する達成率	実績	目標に対する達成率	目標	
多量飲酒者の割合	5.4%	35.2%	2.4%	79.2%	2.4%	79.2%	男性 1.9%以下	○
	0.6%	33.3%	0.4%	50.0%	0.3%	66.7%	女性 0.2%以下	○
小・中学校でのアルコール教育	全校実施	—	全校実施	—	全校実施	—	継続	◎

事業（取組）の効果・評価

健康相談、健康教育、妊婦（両親）教室等において、適正飲酒やアルコールについての正しい知識の普及啓発に努めました。また、小・中学校でのアルコール教育についても全校で実施しています。

「多量飲酒者の割合」は、計画策定時から減少しているものの、中間見直し以降、目標達成率が8割程度での推移にとどまっています。今後は、特に男性や若年者などに対し、アルコールが心身に与える影響やアルコールとの付き合い方などについて、さらなる知識の普及啓発が必要です。また、妊婦や授乳している女性に対しても、飲酒による胎児や乳幼児への影響を周知する等、禁酒の重要性について啓発する必要があります。

重点項目7 健康診査・事後指導の活用

実績及び目標達成率

	【策定時】平成17年度 (2005年度)		【中間実績】平成21年度 (2009年度)		平成26年度 (2014年度)		【最終】平成27年度 (2015年度)	評価
	実績	目標に対する達成率	実績	目標に対する達成率	実績	目標に対する達成率	目標	
健康に関する講座の開催数	50回	—	91回	—	186回	—	増加	◎
健康相談件数	956件	—	738件	—	1787件	—	増加	◎
がん検診受診率	2.5%	92.6%	2.3%	85.2%	2.3%	85.2%	胃 2.7%以上	○
	11.7%	52.0%	17.5%	77.7%	22.9%	101.8%	子宮 22.5%以上	◎
	12.5%	56.1%	17.3%	77.6%	20.8%	93.3%	乳 22.3%以上	○
	1.6%	8.3%	14.5%	74.4%	13.7%	70.3%	肺 19.5%以上	●
	7.2%	30.6%	18.5%	78.7%	21.4%	91.7%	大腸 23.5%以上	○
メタボ該当者及び予備群の割合	—	—	43.4%	73.7%	41.9%	76.9%	男性 32%以下	○
	—	—	14.2%	77.5%	12.1%	90.9%	女性 11%以下	○
生活習慣改善に取り組む人の割合	—	—	48.9%	90.6%	51.1%	94.6%	男性 54%以上	○
	—	—	54.1%	91.7%	56.9%	96.4%	女性 59%以上	○

事業（取組）の効果・評価

30歳代健診や健康長寿健診、国保加入者への特定健診と特定保健指導等、健康診査の実施による生活習慣病の早期発見、その結果に応じた生活習慣改善指導を実施しました。また、各種がん検診については、無料クーポン券の送付等、個別受診勧奨やさまざまな機会を捉えた予防啓発活動、精密検査未受診者への受診勧奨及び医療機関と連携した検診の精度管理などに努めました。そのほか、健康相談や健康教室、出前講座等、健康についての正しい情報発信と生活習慣の振り返りや改善を促す取組を実施しました。

「がん検診の受診率」については、大半の指標が目標を達成できていません。今後はさらなる受診率向上のため、個別受診勧奨の方法、さまざまな機会を捉えた市民への働きかけについて、一層の工夫が必要です。

「生活習慣改善に取り組む人の割合」については、目標達成率が約9割で、上昇傾向にあります。まずは自分の健康に関心を持ち、自分の健康状態を正しく把握し、生活習慣病の予防や重症化予防のために主体的に健康づくり活動が行えるよう、健康診査の受診率向上と行動変容につながる指導の強化、気軽に相談できる環境の整備や相談内容の充実などに努める必要があります。

重点項目8 寝たきり・閉じこもり予防

実績及び目標達成率

	【策定時】平成17年度 (2005年度)		【中間実績】平成21年度 (2009年度)		平成26年度 (2014年度)		【最終】平成27年度 (2015年度)	評価
	実績	目標に対する達成率	実績	目標に対する達成率	実績	目標に対する達成率	目標	
出前講座等の依頼数(保健センター及び地域包括支援センター)	61回 (保健センターのみ)	—	226回 (うち保健センター85回)	—	346回 (うち保健センター121回)	—	増加	◎
高齢者との世代間交流実施施設 (保育園・幼稚園・小学校)	全保育園 全幼稚園 全小学校	—	全保育園 全幼稚園 全小学校	—	全保育園 12幼稚園 全小学校	—	継続	◎
運動器の機能向上事業(はつらつ教室)の実施	—	—	9会場 572回	—	8会場 637回	—	継続	◎

事業(取組)の効果・評価

高齢者の心身の健康の保持及び増進のために、スポーツ教室やいきがい教室の実施、保育園や幼稚園での世代間交流の実施、ふれあい交流サロンや昼食会、高齢クラブの活動への補助、介護予防事業として運動教室の実施や自主グループの育成支援、認知症予防・口腔機能向上等に関する介護予防講座の実施など、さまざまな取組を実施しました。

「出前講座等の依頼数」は地域の関心も高く近年増加傾向にあります。「運動器の機能向上事業(はつらつ教室)の実施」についても、教室参加後の自主グループの数も40団体まで増加しています。

今後も、高齢者が心身の健康を保ちながら、個々の状態に応じ、その人らしくいきいきと生活することができるよう、生きがい・健康づくりの推進や、介護予防についての取組等を一層推進していく必要があります。